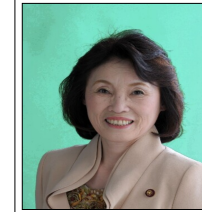


トヨ子&としやの 市政報告

2017年
3月号
第19号

発行者：日本共産党大垣市議団
発行日：2017年 3月 1日
連絡先：大垣市室本町 5 - 8
Tel 78-6865 Fax 73-8572



笹田トヨ子

企画総務委
議会運営委
Eメール sanba1@sasada-toyoko.jp
中田としや 建設環境委
子育て日本一対策副委員長
Eメール nakatatoshiya015@gmail.com



3月
議会

大垣市新年度予算、前年度比0.2%減 一般会計576億 (過去4番目規模)

3月議会に向けて、新年度の予算が発表されました。法人市民税の減収があるものの新築での固定資産税の増収により市税収入は264億円と収入の45%を占めて微増(0.2%)でした。主な新規事業を紹介します。

【子育て支援】

潜在保育士復帰支援事業 70万
復帰不安解消実習を行う

保育士確保推進事業 100万
保育士引越し費用10万助成

民間小規模保育整備 4360万

荒崎幼保園改築調査 450万
育休退園、隠れ待機児童問題の原因は保育士不足にあり、と明らかになっています。保育士と預け先の確保を求める方向での新規事業が出されました。しかし、これで待機児童が解決されるとは思えません。いっそうの公的保育の充実と、保育士待遇改善を求めます。

キッズピアおでかけサポート事業 320万円
1時間分の駐車場回数券を助成

親子バス利用支援事業 755万
バスに同乗するとき保護者の運賃を無料化するときの子の対象を就学前→小学2年生以下と拡大

公園新設改良事業 1110万
東公園(緑園)と安井ふれあい公園(東前)を整備

【地域】

災害時要援護者支援 79万
避難支援体制の充実

消防団員加入促進 130万
学生に月額1万を支給

在宅医療・介護連携システム支援 1280万
地域包括ケア体制を構築するた

め、大垣市医師会が導入するシステムに対する補助

カラス被害対策 41万
カラス撃退器を自治会に貸与

【公共施設】

新庁舎建設用地購入 1億9千万
現庁舎解体 1億2千万
一部業務は仮庁舎を活用して行います。

市営住宅長寿命化計画 320万

公園長寿命化計画策定 500万
長期活用のために維持管理を推進する計画を策定。現況によっては廃止もあり得るため、住民の合意形成が重要です。

男女共同参画センター 730万
スイトピアセンター1F(旧喫茶店部分)にセンターを設置

3月
議会

一般会計予算 以外の議案

新年度予算を除いた3月議会の議案を紹介します。

【補正予算】

川並小グラウンド改修 5500万
小学校トイレ改修 8600万
(赤坂小、青墓小)

三城幼保園建設 1億1700万
大垣市東町に建設。小野幼稚園と三城保育園の老朽化に伴う統合。受入人数は50人増の210人(0歳児保育実施)。2019年

4月開園予定。

まちなか住宅取得支援利子補給金 210万

まちなかに住むため住宅を取得した人にローン金利分を5年間交付(上限年10万)

【条例】

市長給与減額条例

市長給与を15%減額し月額105万とするもの(2003年から継続)

大垣市国民健康保険条例改正

5割と2割の保険料軽減基準を緩和する。

【3月議会日程】

- 2日 予算説明会
- 6日 本会議
- 7日 (中学校卒業式)
- 8日 一般質問抽選日
- 13日 一般質問
- 15日 子育て日本一委員会
市民病院委員会
- 16日 建設環境委
- 17日 経済産業委
- 21日 文教厚生委
- 22日 企画総務委
- 23日 (小学校卒業式)
- 24日 本会議



要望を出していた駅南北のスクランブル交差点、斜めに歩道を示す表示がされて、わかりやすくなりました。

国民の立場で真実を伝え続ける
しんぶん赤旗をお読みください。
日刊紙…3497円 日曜版…823円



小川市政による 「子育て日本一」の本気度は??

合併の目玉として誕生した 「子育て日本一」

私が初当選した年は、西濃10市町の大型合併を精力的に進めていました。しかし、合併は思い通り進まず、当時乳幼児の医療費無料化や30人学級など子育て支援要求が高まっており、「子育て日本一」を大型合併の切り札として打ち出しました。

大型合併は破たんしましたが「子育て日本一」はのこり、乳幼児の医療費の無料化などは前進し周辺自治体の牽引車になったことは事実です。しかし、「30人学級」や「児童館」の願いは全く進まず、今に至っています。

待機児童・「育休退園」に現れた 大垣版「子育て日本一」の本気度

ここ近年、大垣市は「子育てするなら大垣市」「待機児童ゼロのまち大垣」などのスローガンを掲げまち中居住を進め、それに応じて大垣市に移り住んだ人は、保育園探しに苦労することになりました。30年前と違って大垣市も共働き家庭は増えて、少子化であっても保育要求は高まるばかり。年度途中の育休明けや産休明けで保育

園探しで四苦八苦、地方都市の大垣においても待機児童問題が存在するのです。

そこで出てきたのが「育休退園」制度で、母親の育休と同時に保育園にいる3歳未満児は退園させられ、待機児童問題の解消を図ったのです。大人の都合で育ちの場を奪われた子どもにさまざまな問題が起きてきました。

このことから明らかなように、小川市政の「子育て日本一」は、労働力の確保が狙いであって、子どもの育ちは重視していないということです。

すべての子どもの発達保障と女性の自立こそ本当の子育て支援 保育所は、子を持つ女性の自立に不可欠

私たちが望む子育て支援とは、「子育て」と「仕事」の両立できる環境です。ところが多くの女性は「子育て」か「仕事」かの選択を迫られ、どちらかをあきらめざるを得ませんでした。

特に岐阜県の女性はその傾向が強い。岐阜県の女性の就業率や正規雇用率は全国平均より高いのに、女性管理職の占める割合は全国最

下位。どこかで仕事をあきらめているのです。

「育休退園」をやめ、いつでも受け入れる保育環境を作ることこそ「仕事のやりがい」と「子育ての喜び」をもたらすことになり、2人目・3人目を考えることができるのではないのでしょうか。

子どもの貧困の連鎖を断ち切るために

この西濃地域においても児童虐待の相談は年々増加しており、27年度過去最高になりました。

貧困と虐待は相関関係にあるともいわれ、まともに食事も与えられないネグレクト家庭のこどもに2食は提供でき、子どもの育ちを支える保育所の役割は大きいです。

お金のあるなしにかかわらず、すべての幼児期の子どもたちの育ちを保障する保育所。今や次世代を育てる自治体の責任、その本気度が問われています。

本気の子育て支援は町を活性化させる

東京・世田谷区は待機児童が日本で一番多いといわれ、保育所定員枠の拡大に力を入れ、認可園を40カ所ふやすなどしています。それ

でも待機児童数は減らない。

それは子どもの出生数が年々増えていることや子育て世代がどんどん世田谷に転入しているためです。14歳までの子どもの人口が10年前の8万人台から25年ぶりに10万人を超えたとのこと。消費も活性化して、高齢化とともにこども・若者が増えてバランスのとれた人口構成になってきているそうです。

大垣市の人口ビジョンではこのままでは30年先には10万人台になってしまうとのこと、何とか15万人を維持するためには、子育て支援の本気度が問われます。



「大垣の未来をつくる会」 はんざわ多美氏を 市議補選に擁立

「住民投票を実現する会」を改称した同会は、2月26日、市政学習会の場で「実現する会」の共同代表であった繁澤多美氏を市議会議員補欠選挙の候補者として推薦することを発表しました。

繁澤氏は社会福祉士として他県の地域包括支援センターに勤務していましたが、2月27日付けで退職しました。

「未来をつくる会」では、4月の市長選および市議補選に候補者を擁立するため推薦候補者を公募していました。市長候補については引き続き公募を行うとのこと。

トヨ子&としやの2月活動日誌

笹田トヨ子

【2月】

- 2日 自治体議会政策学会（横浜）
- 4日 住民投票を実現する会
- 6日 養老鉄道未来をつくる会
- 9日 西美濃福祉会理事会
- 10日 生活困窮者事例検討会
- 13日 養老鉄道社会実験
- 17日 大垣市未来ビジョン審議会
- 20日 議員団会議
- 23日 議会運営委員会
- 26日 未来をつくる会市政学習会
- 27日 議会運営委員会

中田としや

【2月】

- 1日 養老線沿線協議会
- 2日 ようこそ先輩会議
- 4日 臨時議会報告会
- 5日 アカペラLIVE
- 8日 都市計画景観審議会
- 9日 障がい者福祉策定計画評価委
- 10日 地域福祉のひろば
- 11日 教育フェスティバル
- 12日 学習支援公開講座
- 13日 公共交通実態調査
- 16日 揖斐川町選挙応援
- 17日 国民健康保険運営協議会
- 18日 ふるさと夢会議
- 19日 地球にやさしい生活展
- 25日 かがやきライフタウン春、日新幼保園完成式典